

第4回「市長と語るタウンミーティング」を開催しました

1 日 時 令和4年12月21日(水曜日) 午前10時～

2 場 所 善通寺市メタバース

3 参加者 香川県デジタル戦略総室 井手下様、
(株)ベースメントファクトリープロダクション 取締役、
デジタル田園都市「善通寺」推進本部 CDO 補佐官 久山様
(株)いわま黒板製作所 代表取締役 角野様、企画広報室 角野様
日本電子専門学校 Web デザイン科 関根様
art's 大崎様、大西様、上田様 計8名

4 会議の概要

【テーマ】 デジタル技術が拓く新たな善通寺市について

1. 開 会
2. 主催者挨拶
3. 参加者紹介
4. 地域社会のデジタル化に関する取組等 概要説明
5. タウンミーティングフリートーク
 - ・市役所にも導入した方がいいと思うデジタル化の実例について
 - ・メタバースを活用したイベントやサービスについて
 - ・デジタル化を考える上で大切にすべきことについて
6. 閉会

5 いただいたご意見

発言者	ご意見
<p>香川県 デジタル戦略総室 井出下 様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所にも導入した方がいいデジタル化としては、市の職員が携わる事務の AI 化、紙による各種証明書のデジタル化。 ・デジタル化を考えるうえで大切にすべきことは、未来の理想像を明確にすること。 ・自治体の役割は地域に住んでいる方、訪れてくれる方をいかに幸せにするかを「とことん」考えることであり、「とことん」考えるために現状からスタートして考えていくのではなく、10 年後、20 年後どういう街になっていくのか、どのような街にしたいのかをデジタルで予測しながら理想像と今のギャップを埋めていく作業が必要。 ・メタバースの活用について。数年前にバーチャル渋谷という大きなメタバース空間があった。若者の街である渋谷だからこそ出来た。渋谷の文化である。それを善通寺市に置き換えて掘り下げて考えていくのがメタバースの可能性を探ること。善通寺市の文化を発信し、それに魅力を感じて集まっていただけの方が関係人口になっていく。
<p>(株)いわま黒板製作所 代表取締役 角野 様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバーカードを活用し、市役所に行かなくても各種証明や行政サービスが受けられる仕組みづくりの構築。 ・学校に通えない方や病気で入院している方、高齢者の方などが年齢や状況に捉われず参加できる「学びの場」をメタバース上に設けてはどうか。→「未来のガッコウ」。自宅や病院、施設に居ながら色々な方と交流でき、学ぶことができる。 ・観光面でのメタバースの活用。仮想のツアー旅行を実施してはどうか。バスガイドのアバターが市内各地を案内し、双方向のコミュニケーションを取りながら旅行に行った気分を味わえる。

発言者	ご意見
(株)いわま黒板製作所 企画広報室 角野様	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の授業にメタバースを取り入れてはどうか。 <p>新型コロナウイルス感染症の影響（濃厚接触等）により登校できない場合、自宅から ZOOM で授業に参加しているが、ZOOM の映像を見るだけでは疎外感を感じる。メタバース上でみんなと同じ空間で一緒に授業を受けているような感覚で学べると、より前向きに取り組めるのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、住んでいる地域に関わらず遠方からでも受講することが可能であるため、自分の学びたいことを地方に居ながら実現できることは大きなメリットがある。
art's 大崎様	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントにメタバースを取り入れてはどうか。 ・「カルチャー×五感」をテーマとして、総本山善通寺や五重塔を利用したプロジェクションマッピングの実施。アート要素だけではなく、五感を使うもの（触る、目で見る、匂い、耳で聴く等）。 <p>街の人たちにシビックアンドプライド(※)を感じてもらえる第一歩になるのでは。</p> <p>(※)生まれ育った地域に限らず、自身が想いを寄せる特定の地域に誇りを持ち、積極的・能動的に地方創生に繋がるような行動をしようとする意識・想い・心意気。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「四国子どもとおとなの医療センター」の壁へのプロジェクションマッピングの実施。療養中の子ども、大人、医療関係者が癒され、上を向いて楽しんでいただく時間の提供になるし、地域住民との繋がりきっかけとなるのでは。

発言者	ご意見
<p>日本電子専門学校 Webデザイン科 関根様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育分野へのメタバースの活用。 <p>コロナ禍において ZOOM を導入したが、学生の教育レベルの弊害があった。対面の場合には、分からないことがあれば周囲に訊いたり相談したり気軽に出来ていたが、ZOOM の場合は授業が終了したらすぐに退室し、分からないことはそのままになってしまっている。メタバース上で登校し同じ空間で学ぶことで相談できる環境を作れるのは魅力である。また、「学びの場」をデジタル上で開設することにより世界の人が年齢や地域に関係なく同じ場で学ぶことができるのもメタバースの利点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化遺産の保存事業にメタバースを活用してはどうか。 <p>お寺、古墳等の文化施設をデジタル上で保存し、街の遺産を守る。プロジェクションマッピングの実施。単発的なイベントより継続的なものが望ましい。</p>
<p>art's 大西様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントに関するメタバースの活用。若い世代の人に馴染みが少ない仏教、歴史、文化について、それらを知るきっかけとしてメタバースと弘法大師空海をミックスさせて気軽に人生相談ができるような場を設けてはどうか。バーチャル弘法大師を出現させ、仏教の教え等を踏まえて実際にアドバイスをもらえるイベント等が面白いのではないか。 ・デジタル化を考える上で大切にすべきことは、人間の感情等、アナログ的な部分を尊重することである。 <p>MixedReality(複合現実)や VR は人間拡張の技術であるが、やはりベースは人間であり、それを補うものとしてテクノロジーがあるという意識をもつことが大切である。効率と非効率、デジタルとアナログのバランスを保つことが重要ではないか。</p>

発言者	ご意見
<p>art's 上田様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を含め、若者という括りで考えた時に、市に関わりたいとか、何処かを訪れたいと考えるきっかけとしては、SNS映え等で話題となっているような場所であり、まだメタバースを身近に感じている若者はあまりいないように思う。 ・これまで地元のことを考えたりする機会がなく、あまり愛着を持っていなかったが、それは自分がまちづくりに繋がっている、関わっているという感覚がなかったため。 ・時間や場所に捉われず、いつでも誰でもメタバース上に集まってコミュニケーションをとり、アイデアが生まれるプラットフォームがあれば。一過性のものではなく、継続的に関われるスペースが必要。 ・オンラインでもオフラインでも継続的な関わりの方が大切。
<p>(株)ベースメント ファクトリー プロダクション、 デジタル田園都市 「善通寺」推進本部 CDO 補佐官 久山様</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化において大切にすべきことは、人の感情などアナログ的な感覚である。人が繋がって物事が進んでいくというのが根幹にある。 ・公共財のメタバース活用。近年、ブロックチェーン(※1)という技術が社会的影響を持ってきている。NFT(※2)でアーティストの作品が売買されている。例えば、黒板アートへの適用が可能ではないか。黒板アートのデジタル版。小さな経済圏が生まれる。また、NFTの活用としてはふるさと納税にも適用できるのではないか。 <p>(※1)ブロックチェーンとは、参加者の中に不正を働く者や正常に動作しない者がいたとしても正しい取引ができ、改ざんが非常に困難で、停止しない、多数の参加者に同一のデータを分散保持させる仕組み。</p> <p>(※2)NFT(Non-FungibleToken)とは、代替不可能なデジタルデータのこと。ブロックチェーン技術により、デジタルデータに固有の価値がつくようになった。NFTは誰でも作成・販売ができ、転売されると作者に報酬が還元される。</p>

	<p>・善通寺市という地域から飛び越えて、例えば 2025 年開催の大阪万博を見据えて何かしら対話の延長や黑板アート、教育関係の競争事業等を考えていくのもいいのでは。</p>
発言者	ご意見
日本電子専門学校 Web デザイン科 関根 様	<p>・メタバースを含むデジタル化が進み、全国の市町村が一つのネットワークで繋がったデジタル上の日本が出来上がるのかなとイメージできた。</p>
香川県 デジタル戦略総室 井出下 様	<p>・黑板アートのメタバース活用について。3月の卒業シーズンに学校の先生が黑板に描くような作品を全国から善通寺市メタバースに集めてきてコンテストや鑑賞できるような取り組みがあると面白いのでは。</p>
(株)いわま黑板製作所 代表取締役 角野 様	<p>・これまで黑板アートコンテストは善通寺市に来て描いていただくことにこだわっていたが、メタバースを利用し、全国から作品が集まってくるという取り組みも面白いと思う。</p> <p>・バーチャル空間での弘法大師空海の人生相談、はだか祭りゲームなども実現できたら面白い。</p>
art's 大崎 様	<p>・今回のメタバースミーティングのように多様性のある意見を集める、一緒にコラボして何かを作り上げて相乗効果が得られるダイバーシティ&インクルージョン(※)のような取り組みはこれからも継続して必要である。</p> <p>(※)多様な人材を活かし、その能力を発揮できる組織風土づくりをすること。</p>
art's 大西 様	<p>・多様な意見を聞く機会はデジタル化において大切にすべきこと、意識すべきことが明確になる。</p>
art's 上田 様	<p>・固定概念として、これまで行政のやっていることはあまり見えていなかったし、堅いイメージがあったが、このようなミーティングが広がって善通寺市の街の日常になれば。</p>

